

# 慶應言語学コロキウム

## Inside the Miracle Creed: Some Core Concepts

講師：北原 久嗣（慶應義塾大学）

討論者：大石 正幸（東北学院大学）、豊島 孝之（東北学院大学）

司会・コメンテーター：内堀 朝子（東京大学）

日時：2026 年 3 月 21 日(土)～22 日(日) 13:30-18:30

会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館大会議室 ※対面開催のみ

使用言語：日本語

参加申込：研究所ホームページもしくは右のQRコードよりお申込み下さい

- \* 準備の都合により、事前申込をお願いいたします。
- \* 事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能ですが、会場にて参加者カードへの記入が必要となります。
- \* 今回のセミナーは生成文法研究の専門的知識が前提となります。



言語とは何か、この問いを生成文法研究の現在の到達点から考えます。"The Miracle Creed and SMT" (Chomsky 2024, A Cartesian Dream: A Geometrical Account of Syntax in honor of Andrea Moro, Lingbuzz Press, 17-39)を中心にとりあげ、必要に応じて"Minimalism: Where Are We Now, and Where Can We Hope To Go" (Chomsky 2021, 言語研究 160:1-41)に言及するなか、この二つの論文に集約された極小主義モデルについて理解を深め、そこで提起されている諸問題について主体的に取り組むことができるようになることを目指します。本コロキウムはチュートリアル形式で進めます。参加者は事前に上記の論文を読み込み、問題意識をもって参加することを期待します。Chomsky 2021 はリンク①からダウンロードできます。Chomsky 2024 の入手が難しい場合は出版前の原稿をリンク②からダウンロードできます。各自ダウンロードした論文を持参してください。なお、背景知識として生成文法研究の基礎仮説およびシンタクスのモデルの変遷についておさえておきたい方は、福井直樹氏による「シンタクスの論理 I, II, III」(国語研言語学レクチャーシリーズ)の視聴を推奨します。動画はリンク③で公開されています。

- ① [https://ls-japan.org/wp-content/uploads/2024/02/160\\_chomsky.pdf](https://ls-japan.org/wp-content/uploads/2024/02/160_chomsky.pdf)
- ② <https://www.icl.keio.ac.jp/news/2023/Miracle%20Creed-SMT%20FINAL%20%2831%29%201-23.pdf>
- ③ [https://www.youtube.com/playlist?list=PL6UgtDhsSbFY5dzsSpBB8CE7\\_H1We-WKP](https://www.youtube.com/playlist?list=PL6UgtDhsSbFY5dzsSpBB8CE7_H1We-WKP)

共催：科学研究費助成 基盤研究(C) 25K04101 『併合と最小探索に基づく日英語比較研究：統辞構造はどのように生成され解釈されるのか』

【お問い合わせ先】

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所  
電話：03-5427-1595（事務室直通） メール：genbu@icl.keio.ac.jp  
<http://www.icl.keio.ac.jp>